
「はじまりの景色」

常世 佑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「はじまりの景色」

【Nコード】

N5485M

【作者名】

常世 佑

【あらすじ】

小学三年生の時過って沸騰したヤカンを右足に落としてしまい大火傷を負ってしまった慎二の兄…
やけどと向き合いながら必死に生きる兄が沢山の人と出会い共に支え合いながら成長していく感動の物語。

「太陽の光」

僕が東京の大学病院に転院して来てから今日でちょうど一年目の夏になる。

一年前は地元の大学病院で治療をして居たものの過って沸騰しているヤカンのお湯を被った右足のやけどは僕自身が想像していた以上に深刻で地元の病院での治療は困難となり担当医の紹介で世界でも有名な整形外科の医療チームが在籍する東京の大学病院で治療と手術を行う事になり今の病院へとやって来た。

病院での生活は規則正しく時間が過ぎ必ず夕日がビルに姿を消そうとする夕方の5時前後くらいになるとこうしてベッドの上から太陽の日差しで真っ黒に日焼けした小学生達が家族の集まる家路に帰る姿を見つめている。

僕にも遠く離れた田舎町に家族と一緒に住んでいる小学校三年生の弟が居る。

弟の名前は慎二と言う名前で人一倍正義感が強く誰にでも優しい子だ。

慎二は月に一回母と手を繋ぎながら僕が入院する病院まで電車を乗り継いで会いに来てくれる。

慎二はいつも僕の姿を見るなりすぐに母の手から離れ勢いよく走りながらベッドまで来て「兄ちゃん車椅子に乗って」と久しぶりの再会に凄くうしろな笑顔を輝かせながら車椅子のイスを何度も叩いた。

僕が車椅子に乗ると慎二は小さい体に精一杯力を込めて病院の中庭まで押して行ってくれる。

そんな様子を母はいつも目を浮かべながら嬉しそうな表情で僕達の姿を見てくれた。

僕達は深緑が綺麗な中庭を一周すると決まって噴水が見える少しだけ丘になっている所にあるベンチに肩を並べて散歩に行く前にあら

かじめ車椅子の後ろのポケットに入れて置いたラムネ取り出し青空に浮かぶ入道雲の下ラムネを片手に互いの話を夕日がビルに隠れるまでの時間お互いの話を熱心に語り合った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5485m/>

「はじまりの景色」

2010年10月10日20時09分発行